

令和2年度（2020年度）学校評価の結果と考察

長野県寿台養護学校 学校評価委員会

1 アンケート回収率

保護者 78%（昨年84%）

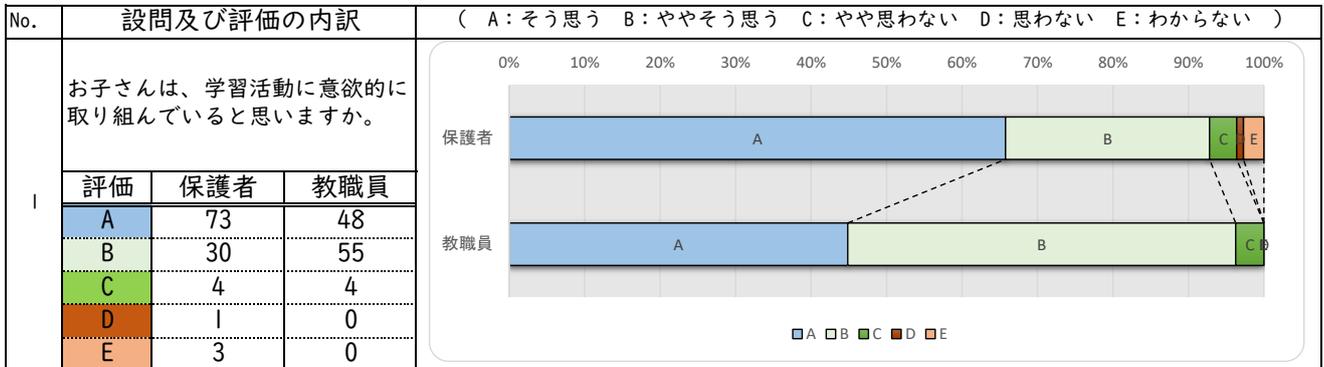
教職員 100%（昨年100%）

- ・未提出の家庭への呼びかけをあまりしなかったため、昨年度より回収率が低下した。

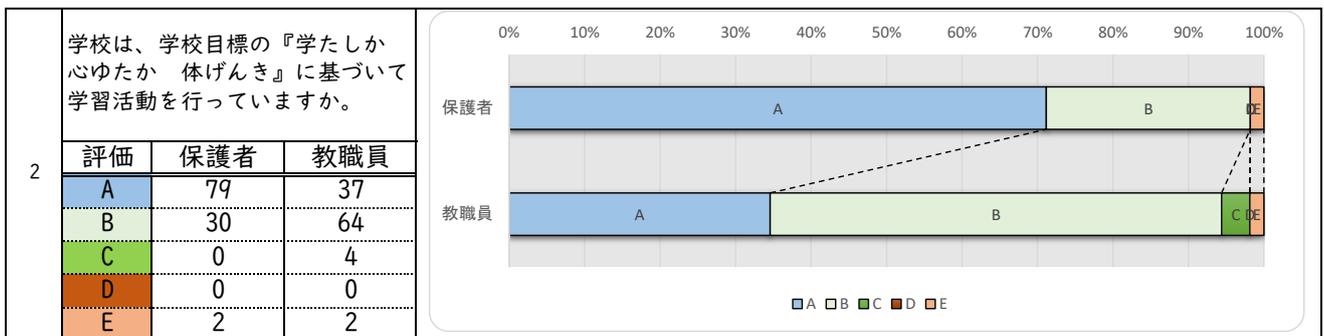
2 アンケートの実施形態

- ・昨年度とほぼ同様の質問事項10項目について、無記名のアンケートを、保護者と教職員に実施した。
- ・職員は提出用大封筒に各自で直接投函した。保護者は提出用封筒に入れて封をして提出。部長が回収して開封した。

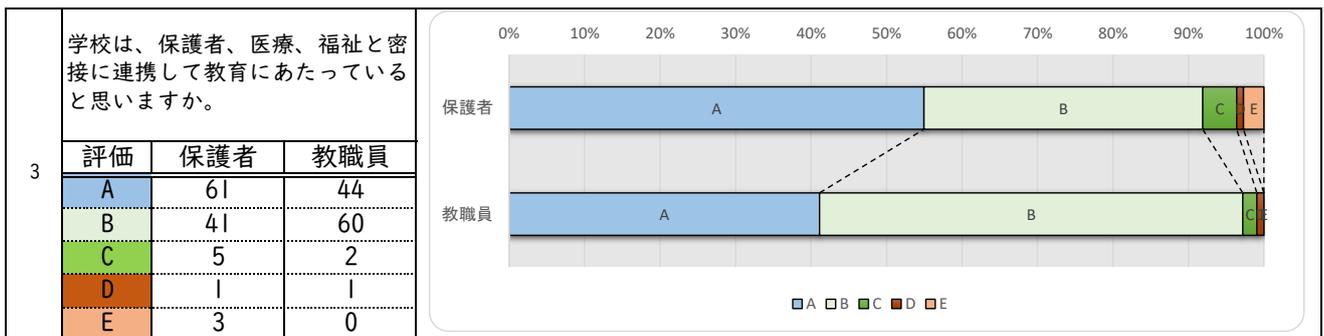
3 アンケート結果と考察



多くの方から良い評価をいただいているが、低評価もあることをしっかりと受け止めたい。児童生徒が活動に見通しと期待感を持ち、自分から、より意欲的に学習活動に取り組むことができる授業づくりを目指していきたい。



保護者からはコメントでも好評価をいただいている。さらにAに近づけていくために、教職員も学校目標をより一層意識していきたい。

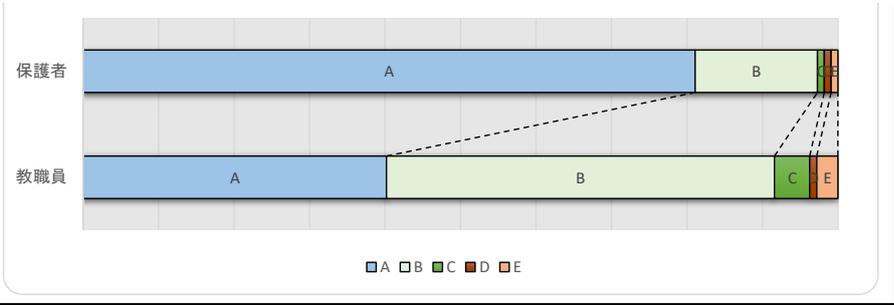


連携がとれるシステムになっていて、実際に機能しているという評価ととらえる。距離感を感じるという保護者からのコメントもあり、教師と保護者で日常的に直接話をする機会が少ない（参観日等でも挨拶程度にとどまる）ことが要因であろう。ちょっとした悩みや不安を話し合えるようにしていくことが大切な連携の基礎である。



子供の個別職員は、個別の指導計画を活かして日々の授業実践を行っていると思いますか。

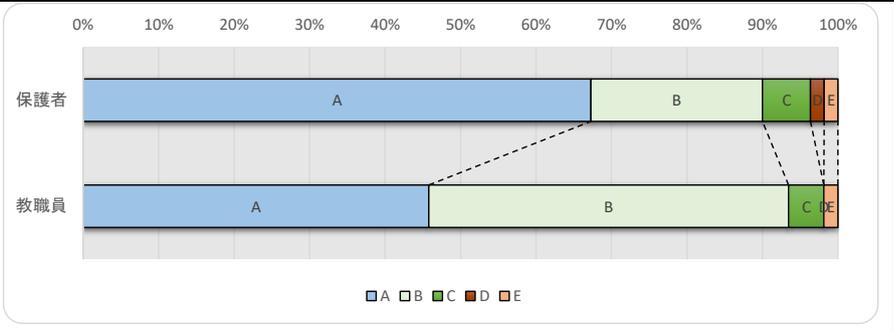
評価	保護者	教職員
A	90	43
B	18	55
C	1	5
D	1	1
E	1	3



日々の授業実践について、保護者は概ね高く評価しているが、教職員の中には、個別の指導計画の確認や活用がさらに必要だと感じている人も少なからずいる。向上心の表れとも考えられるが、部や学年全体として研修や実践を積み重ねていきたい。

学校職員は、お子さんについての相談・学校への意見・要望等を的確に受け止め、対応していますか。

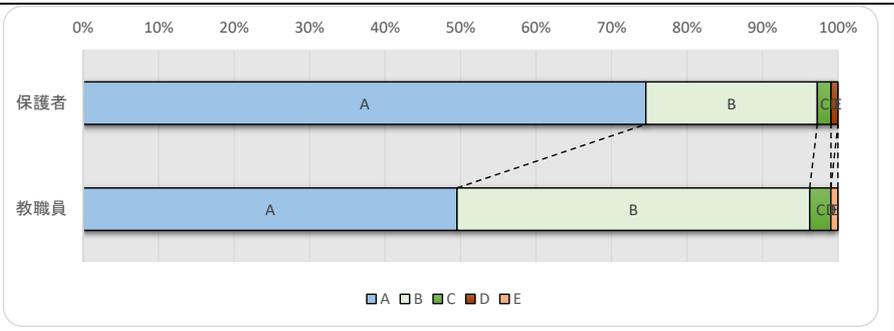
評価	保護者	教職員
A	74	49
B	25	51
C	7	5
D	2	0
E	2	2



教職員は対応しているつもりでも、対応が遅いとか連絡不足と感じる保護者もいる。保護者に対する迅速な対応や丁寧な説明を大事にするため、校内での「報・連・相」を意識的にやりたい。

学校職員は、児童・生徒の人権を尊重して指導・支援にあたっていると思いますか。

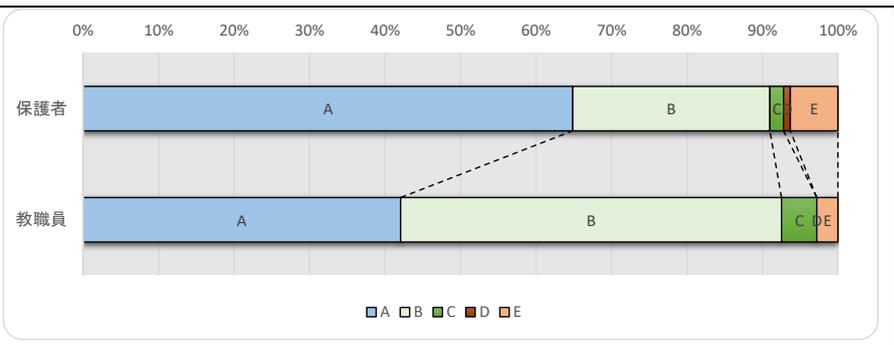
評価	保護者	教職員
A	82	53
B	25	50
C	2	3
D	1	0
E	0	1



保護者・教職員とも95%以上が「良い」との評価で、人権を尊重しての支援を心がけていると思われる。少数だが「そう思わない」との評価もあるので、研修や職員同士の連携を通して、人権感覚をさらに磨いていくように努めていきたい。

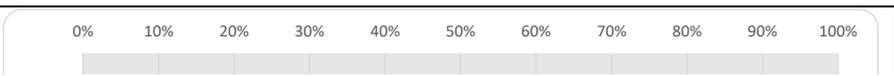
日々の授業（自宅学習やオンライン授業を含む）や行事等は、お子さんの育ちにとって有効なものになっていると思いますか。

評価	保護者	教職員
A	72	45
B	29	54
C	2	5
D	1	0
E	7	3

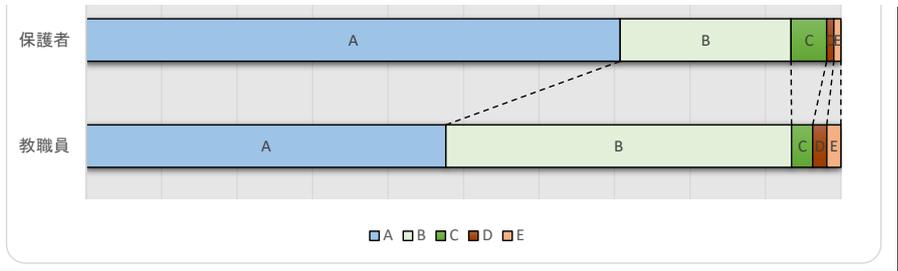


概ね「有効である」との意見であったが、他の項目より「わからない」との意見が多かった。ICTの活用や個に応じた学習内容の工夫などに心がけ、児童生徒の育ちを分かりやすく伝えるようにしていきたい。

お子さんの健康と安全に留意した学校生活が行われていると思いま

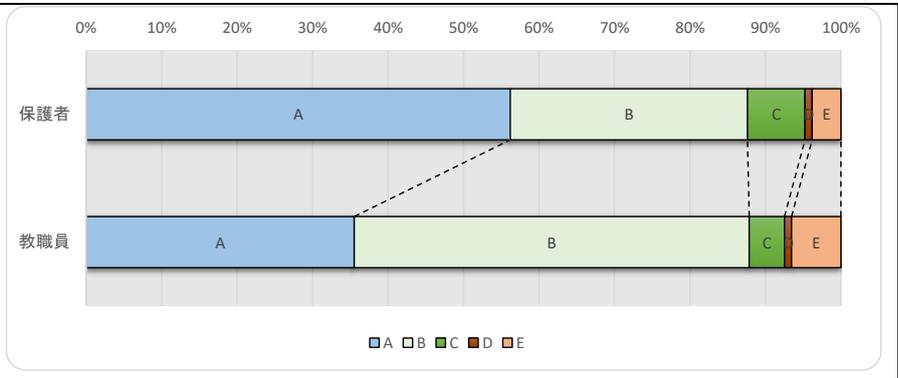


8	評価	保護者	教職員
	A	75	51
	B	24	49
	C	5	3
	D	1	2
	E	1	2



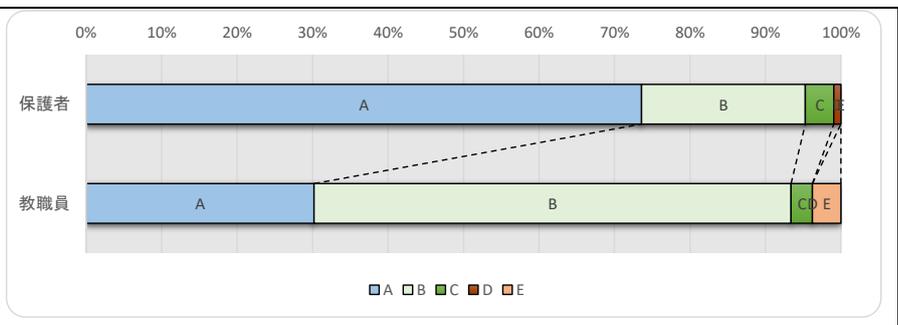
全体的に見ると肯定的な回答が多い。今年度は新型コロナウイルス感染症への対応を課題と感じられた保護者もいたのではないかと考えられる。

9	学校行事や授業参観の時期、回数、内容は適切だと思いますか。(今年度は感染症予防の観点からやむなく中止・延期にしたものがあります。それも含めて評価してください。)	保護者	教職員
	A	59	38
	B	33	56
	C	8	5
	D	1	1
	E	4	7



コロナ禍ということで、各部で参観方法等を工夫しての実施となった。授業参観は、少ない日数での実施だったため、一日の日程が忙しくなってしまうなどの課題があった。感染症予防を考慮した上で、最善の実施方法を工夫していきたい。

10	お子さんの様子や成長の姿は、学校から家庭へ分かりやすく伝わっていますか。	保護者	教職員
	A	78	32
	B	23	67
	C	4	3
	D	1	0
	E	0	4



教職員の自己評価はBが多いが、「連絡ノートに1日の様子や良い部分をていねいに記入してもらい分かりやすかった」という保護者のコメントからも、日々、わかりやすく伝えようとしていることが保護者の評価に表れている。

4 学校評価委員会の考察（まとめ）

(1) 学校評価アンケートからみた本年度の成果

- ・ 臨時休業、行事の変更、中止等があったが、B評価も含めれば我々が行っている支援や学校運営等を概ね好意的に評価している。一方で、保護者からの少数意見をしっかり検討し、反省材料としてさらに良い学校にしていければと思う。一つ一つの意見を、該当する係で考え、来年度の活動計画に反映させていきたい。
- ・ 多くの記述があったことはたいへんありがたい。保護者からは厳しいご指摘をいただいたが、学校への期待や関心の表れだと思うので、真摯に受け止めて、来年度に生かしていきたい。
- ・ 個別の指導計画に基づく教育支援、授業実践を行うことができた。今年度、個別の指導計画の作成やB表への生かし方（重点目標などの立て方）などの研修がとてもわかりやすく、それが日々の授業の中で意識して行っていくことにつながり、保護者の方にも伝わったのだと思う。大きな成果と言える。
- ・ 保護者との連携がスムーズにできていると、児童生徒の成長の姿を適切に認めていただける。

(2) 前年度比較からの考察

- ・ 保護者の方からは、昨年度と比べてより良い評価をいただいた項目が多かった。再編3年目となり、寿養のスタイルができてきているからではないか。

- ・教職員は個別の指導計画を活かして日々の授業を行っている実感が増した一方、子どもが学習活動に意欲的に取り組んでいるかという項目については、やや自信がない様子がうかがえる。
- ・コロナ禍の中、前年度と異なることや柔軟な対応等を求められることが多い今年度だったが、そのような中だからこそ、より丁寧に学校・学級の方針をお伝えすることを心がけて取り組んできた。それが、前年度と比べてA、Bの回答が多いという保護者の評価の値となって表れているように感じる。一方で、多くの項目でC、D、Eの回答がある。コロナ禍で家庭訪問や懇談会が短縮となったり、参観日や文化祭が変更になったりしたため、保護者と直接話す機会や学習活動を見てもらえる機会が減り、学校や子どもの様子を十分伝えきれなかったのかもしれない。
- ・感染症予防のための行事の変更やオンライン授業への取り組みなどが、保護者にわかりにくい面があった。

(3) 今後も継続的に取り組むこと

- ・個別の指導計画に基づく教育支援や授業実践、研修・研究を積み重ね、日々の授業の中で意識して行っていくようにする。
- ・保護者、医療、福祉との連携を大切にして、必要な情報提供に努めるとともに、保護者からの相談、ご意見に真摯に対応する。
- ・アンケートは、同じ項目を何年も続けていくことに意味があるので、必要があれば新しい項目を加える方向で考えたい。

(4) 課題となった項目・来年度大切に取り組みたいこと

- ・個別の指導計画を活かした授業づくりをすることで、子どもたちが意欲的に活動に取り組む姿につなげていく。
- ・7番と9番でC、D、Eの回答が多かった。休業中の自宅学習やオンライン授業における学習のねらいや、学校行事のねらいについて、保護者に対して説明不足だったのかもしれない。来年度は、部ごとに教育課程・シラバス（単元のねらいや活動内容と教科等との関連）を作成するとともに、保護者にわかりやすく伝えていくことに取り組みたい。

5 学校評議員からの意見

- ・今年度はコロナ禍で、特に学校では予期せぬことが起きている状態であろう。教職員は特に、謙虚に感じるもの。先生方のご苦労は大変なものであったと思う。こういう中での保護者からの高い評価を素直に受け、先生方は自信を持ってほしい。
- ・withコロナはこれからも続く。オンライン授業やICT利用はこれからの課題だろう。保護者にわかりやすく伝えることが、授業実践や人権尊重などへの評価にもつながってくる。
- ・オンラインの使い方をご家庭に伝えていく講習会をやるくらいでないとなかなか進まない。先生方も学んで家庭に伝えていくことが必要。家庭とより密接に、気持ちが伝わるようにやってほしい。